

愛知県新体育館基本計画（概要）

趣旨

(背景)

- 現体育館は、1964年10月の東京オリンピックの直前に完成し、以来、半世紀以上、夏の風物詩にもなっている大相撲名古屋場所の開催などを通して、県民に親しまれている施設である。
- しかしながら、施設の老朽化とともに、同じ頃に建設された、国内の他のスポーツ施設と同様に、規模、機能とも国際水準を満たしていない。
- 2026年アジア競技大会に利用できるよう、新体育館の整備に向けた準備を進めることとした。

(経緯)

- 2017年度 新体育館整備検討業務
 - ・建物規模の設定、配置の検討等
- 2018年度 新体育館基本計画等検討業務
 - ・基本計画図書の作成
 - ・PFI導入可能性調査
- 新体育館整備環境現況調査業務
 - ・公園施設等現況調査

(基本計画について)

- 新体育館は、PFI事業による整備に向けた準備を進めるため、現時点で県が考えるイメージを「愛知県新体育館基本計画」として取りまとめた。
- この基本計画を踏まえ、名古屋市の公園計画等との整合性などを図りながら引き続き協議をしていく。

新体育館は、国際大会を開催するために必要な規模、機能を有することで、国際スポーツ大会などの誘致を可能とし、かつ大相撲名古屋場所の開催など現体育館が担ってきた伝統や歴史をさらに発展させていく愛知・名古屋のシンボルとなる施設を目指す。

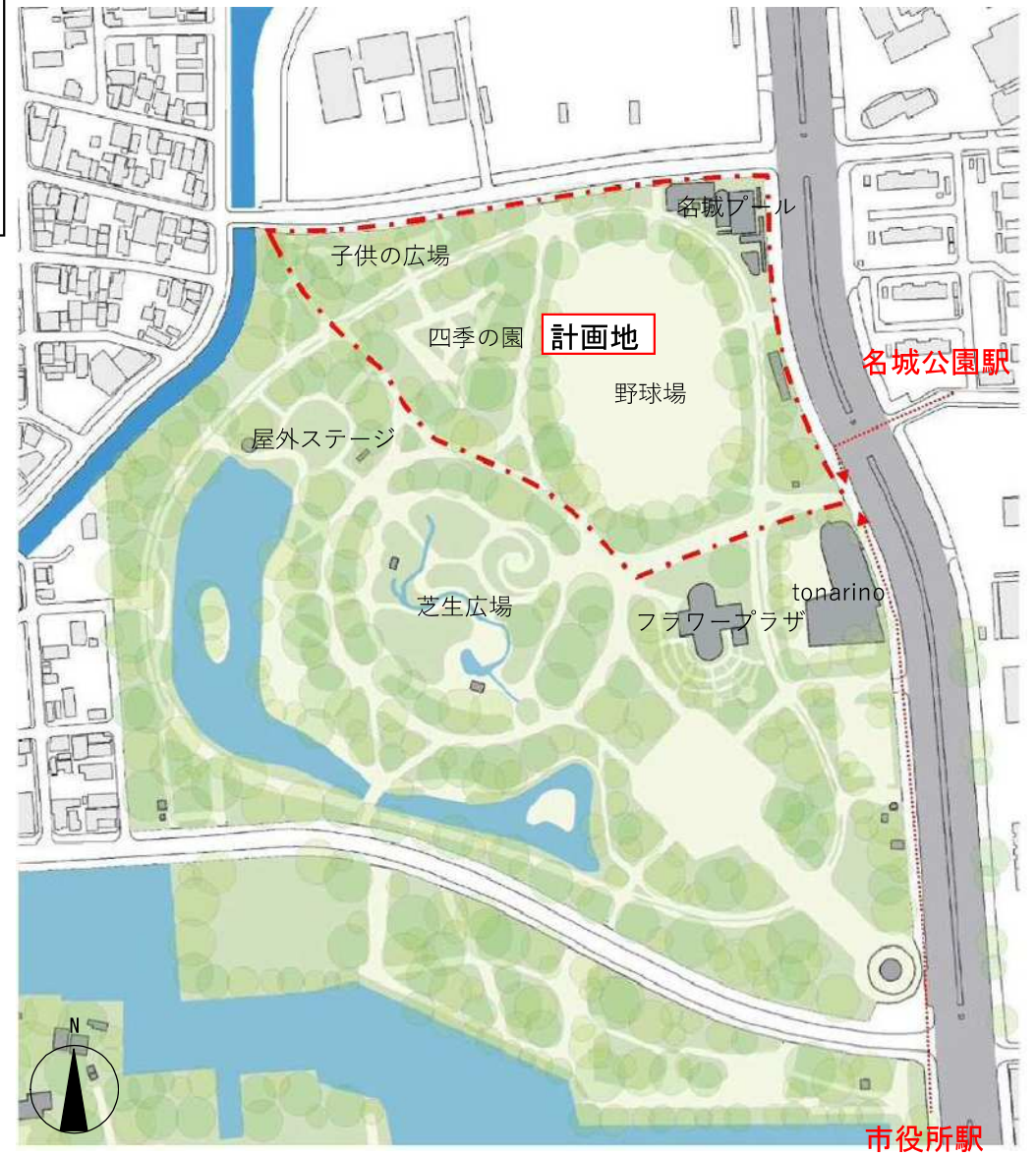
計画検討敷地

<計画検討敷地>

- ・所在地 名城公園北園の一部
- ・面積 約4.6ha
- ・管理者 名古屋市（土地は国有地）
- ・主要アクセス 名古屋市営地下鉄名城線
名城公園駅（徒歩約1分）、市役所駅（徒歩約10分）

<参考：名城公園の概要>

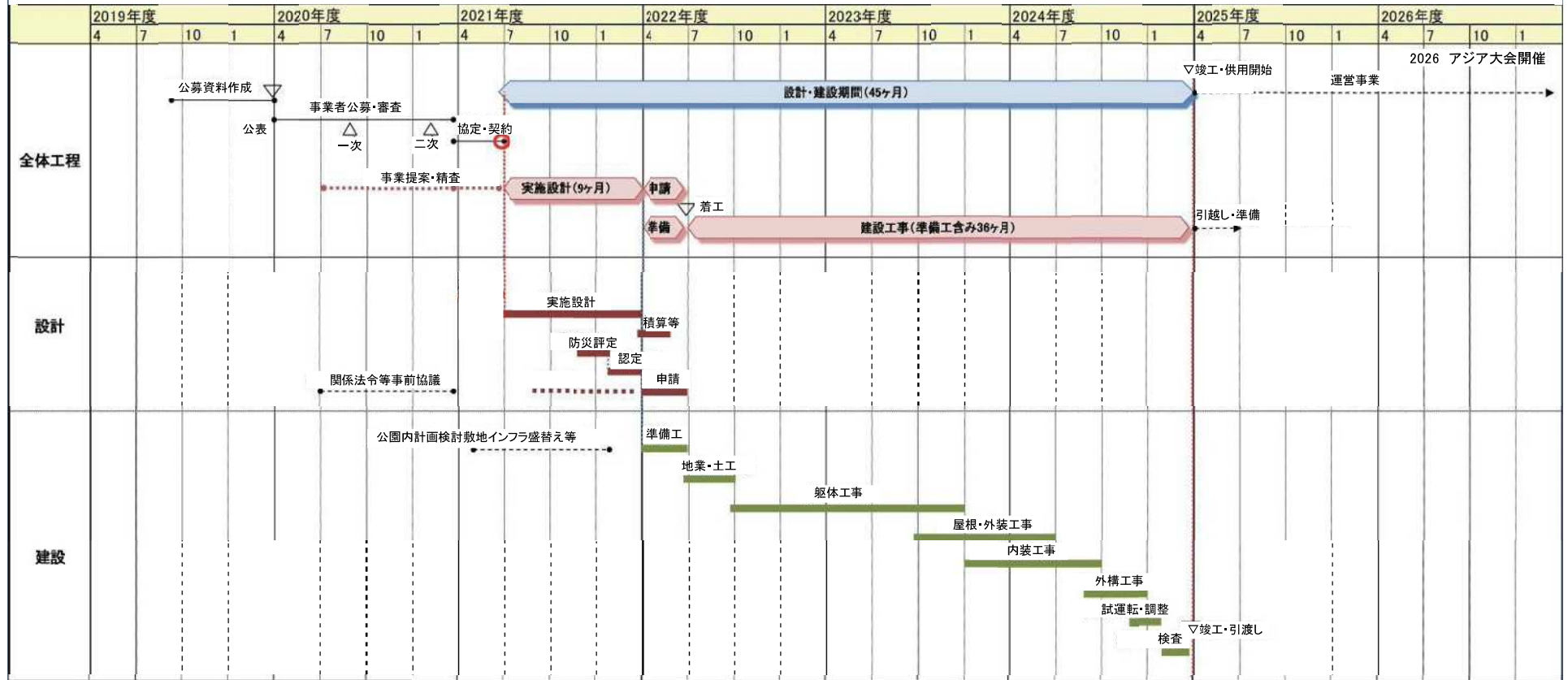
- 開園年度 昭和6年
- 都市公園法による設置 昭和31年10月15日
- 公園面積 79.78ha
- 所在地 名古屋市北区名城一丁目地内
- 公園種別 総合公園



工程計画

設計・建設・供用開始等のスケジュールについては、類似施設等の事例を踏まえて下表のとおり整理する。
 なお、アジア大会(2026年)の開催が可能な工程とし、PFI事業（整備・運営）を想定した計画とする。

【設計・建設等に関する想定スケジュール】



備考

【前提条件】

- 1 設計の前段階において、都市公園法等の許可手続きの事前協議があるものとする。
- 2 設計段階では、避難検証法等による防災評価、大臣認定等を想定する。
- 3 建設工事前に、計画検討敷地のインフラの盛替え等が行われている状態を想定する。
- 4 本体工事工程は想定のものであり、設計内容、地中条件、発注時期の市場変動等により変化する可能性がある。

●類似施設の工事工程

施設	施設規模	設計	工事	全体	備考
Sアリーナ	約 30,000 m ²	13 ヶ月	28 ヶ月	41 ヶ月	
Oアリーナ	約 28,000 m ²	13 ヶ月	27 ヶ月	40 ヶ月	
Y 体育館	約 12,000 m ²	10 ヶ月	24 ヶ月	34 ヶ月	
Y 体育館	約 14,000 m ²	49 ヶ月	25 ヶ月	74 ヶ月	解体 12 ヶ月を含む
F 体育館	約 25,000 m ²	7.5 ヶ月	18 ヶ月	25.5 ヶ月	
Aアリーナ	約 47,000 m ²	12 ヶ月	33 ヶ月	45 ヶ月	

計画コンセプト

■ 基本計画のコンセプト

新体育館の整備に関する基本的な考え方（以下「コンセプト」）を下記に記す。

愛知県体育館が積み重ねた伝統を継承した愛知・名古屋のシンボルとなる施設

● 計画コンセプト



01 大相撲名古屋場所にふさわしい 風格のある施設

- ▶ 大相撲名古屋場所を引き続き開催できる風格のある施設。
- ▶ 日本らしさ“和”を感じる伝統的なスポーツの拠点の施設。
- ▶ 名古屋城天守閣を仰ぐことができる施設。



02 ピンポン外交など 50 年以上の 愛知県体育館の歴史を引き継ぐ施設

- ▶ 名古屋城への眺望を活かした計画とする。
- ▶ 歴史的な経緯を踏まえたイベントが開催できる新たな施設。



03 全国大会を常時開催できる施設

- ▶ 野球なら「甲子園」、ラグビーなら「花園」といった認知度の高い施設。



04 アジア大会を始めとした 国際大会を開催できる施設

- ▶ フィギュアスケートの国際大会が開催可能な施設。
- ▶ バレーボールなどの国際大会の会場に必要な諸機能の確保した施設。
- ▶ V I P（国内外の要人等）が利用できるホスピタリティの高い施設



05 全国レベルのコンサート、イベント、 コンベンション等の拠点となる施設

- ▶ 多様な利用、幅広い集客を目指した施設。

概略諸元表

	基本計画案の概要	基本計画案の特徴	有明アリーナ（計画時）	横浜アリーナ
施設規模	建築面積：20,000㎡程度 延床面積：43,000㎡程度 建築高さ：31m		約47,000㎡	約45,000㎡
観客関連 エリア	23,000㎡程度 固定席：11,000席 〔固定席 11,000席（2～4階）〕 〔VIP室 15室程度〕 諸室：エントランス、コンコース、テナント（飲食、物販）、 トイレ、VIP室（15室）、VIPラウンジ、 VIP専用エントランス	○フィギュアスケート開催時に11,000席確保 ○バレーボール・バスケットボール国際大会決勝戦時に15,000席確保 （可動席・仮設席含む） ○大相撲開催時に11,000席確保（升席、溜席、固定席含む） ○VIP専用の動線を確保	約24,000㎡ 観客席：15,000席 （可動席、仮設席含む） 諸室：エントランス、コンコース、テナント、トイレ VIP室、VIP席、VIPラウンジ BOX室	約16,500㎡ 観客席：約15,000席 （固定席：6,400、可動席：8,600） 諸室：エントランス、コンコース、テナント、トイレ スイト室、BOX室
競技面等 関連エリア	7,500㎡程度 メインアリーナ：4,500㎡ 〔可動席 3,000席〕 〔仮設席 1,000席〕 サブアリーナ：1,500㎡ 多目的ホール：1,500㎡	メインアリーナ：85m×53m（可動席含む） 〔アイススケートの63m×33m、 バスケット4面の場合76m×47m必要〕 〔天井高は映像設備を設置時も12.5m以上確保〕 サブアリーナ：50m×30m（バレーコート二面の確保） 多目的ホール：50m×30m（サブアリーナと一体利用可能）	約6,000㎡ メインアリーナ：約4,500㎡ （可動席含む） サブアリーナ：約1,500㎡	約11,000㎡ メインアリーナ：約8,000㎡ （可動席含む） サブアリーナ：約1,000㎡ セテニアルホール等：約2,000㎡
選手関連 エリア	1,000㎡程度 諸室：更衣室、監督室 ウォームアップエリア ドーピングコントロール室、医務室 浴室	○選手関連エリア動線の明確な分離 ○選手関連諸室の確保 ○大相撲名古屋場所に備えた浴室の確保	約2,000㎡ 更衣室、監督室 ドーピングコントロール室、医務室 会議室、控室	約2,500㎡ 会議室、控室
運営、 メディア 関連エリア	1,500㎡程度 諸室：会議室、控室 （運営室、会議室、委員長室、記録室、更衣室、 審判控室、記者室、会見室、カメラマン室、更衣室）	○運営、メディア関連諸室の確保 ○会議室、控室は多目的に様々な規模で利用できるよう可動間仕切壁を設置		
施設管理 関連エリア	10,000㎡程度 諸室：セントラルキッチン・パントリー、警備室、 警備・警察・消防控室、救護室、倉庫、機械室、 清掃室、事務室等	○VIPラウンジやレセプション会場へ飲食提供するため、セントラルキッチン を確保 ○メインアリーナへ大型資材を直接搬入できるようにするため、大型車両 （11t）の進入路を確保 ○施設管理関連諸室の確保	約15,000㎡ ペDESTリアンデッキ、警備室、警察・消防 控室、救護室、倉庫、防災倉庫、機械 室、清掃室、事務室等	約15,000㎡ ペDESTリアンデッキ、警備室、警察・消防 控室、救護室、倉庫、機械室 清掃室、事務室等